

2021年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部 国際文化学域
「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・
中国語・朝鮮語）」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際文化学域	36	33	29

2. 第一次選考<ES（エントリーシート）と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

提出された出願書類に基づいて選考します。多くの受験者が、留学や学外活動なども含む豊かな経験を出願書類に織り込んでくれるのですが、評価するのは、それら経験を通して得られた能力や課題です。また、その内容が国際文化学域で学ぶ目的と関連づけられている場合、いっそう高評価となるのは言うまでもありません。

(2) 解答状況

基礎学力面での不足を感じさせる書類はほとんどありませんでした。志望理由書もおおむね意欲的でしたが、国際文化学域の教学内容との関連が薄かったり、文章が十分に整序されていなかったりするものも散見されました。

3. 第二次選考<面接試験>

(1) 評価ポイント

事前に用意した内容をただ口にするのではなく、質問内容をしっかり捉えて答えようとする姿勢を、何よりもまず重視します。また、語られる内容には、国際的な視点が含まれ、あるいは卒業後の進路のヴィジョンと結びついていることが期待されます。

(2) 解答状況

緊張からか、質問内容からいくぶん外れた応答が返ってくる場面もありましたが、それでも解答の大半は誠実なものでした。卒業後のヴィジョンと堅実に結びついた解答からは、おおいに頼もしい印象を受けました。

(3) 試験（面接）内容

高校時代の活動を通じて得たことを踏まえ、大学入学後に学びたいと考えるテーマが、第一に問われる内容です。応答（解答）は多様で、ですからその後は、決まった問いがあるのではなく、最初のやりとりから派生するオーダーメイドの問いと解答が、面接という一期一会のコミュニケーション機会を作ることになります。

(4) 出題（面接）の意図

上記の「試験（面接）内容」の最初の問いは、志望理由書に記載することがすでに求められていたものです。記載内容がいかに豊かでも自身で考えたものになりきっていないと無意味ですし、そうした思考力と文章力の持ち主は、あらかじめ明示されてい

ない問いにも真摯に対応できるはずですが。要は面接とは、そうした誠実かつ自然な人間力が試される機会にほかなりません。

(5) 受験生に望むこと、その他の気づいた点

文学部内の、他にもない国際文化学域を志望する以上、日頃から国際的な視野に立って文学や歴史、あるいは文化に、特別に関心を寄せてほしいと願います。そのためには、新聞やテレビ、インターネット等を通じて普段からさまざまなニュースに接することが必要ですし、少し背伸びして、学域を構成する3つの専攻のいずれかに関わる専門書を図書館で借りて読む、といったことも有用でしょう。

以上